

# 参考資料

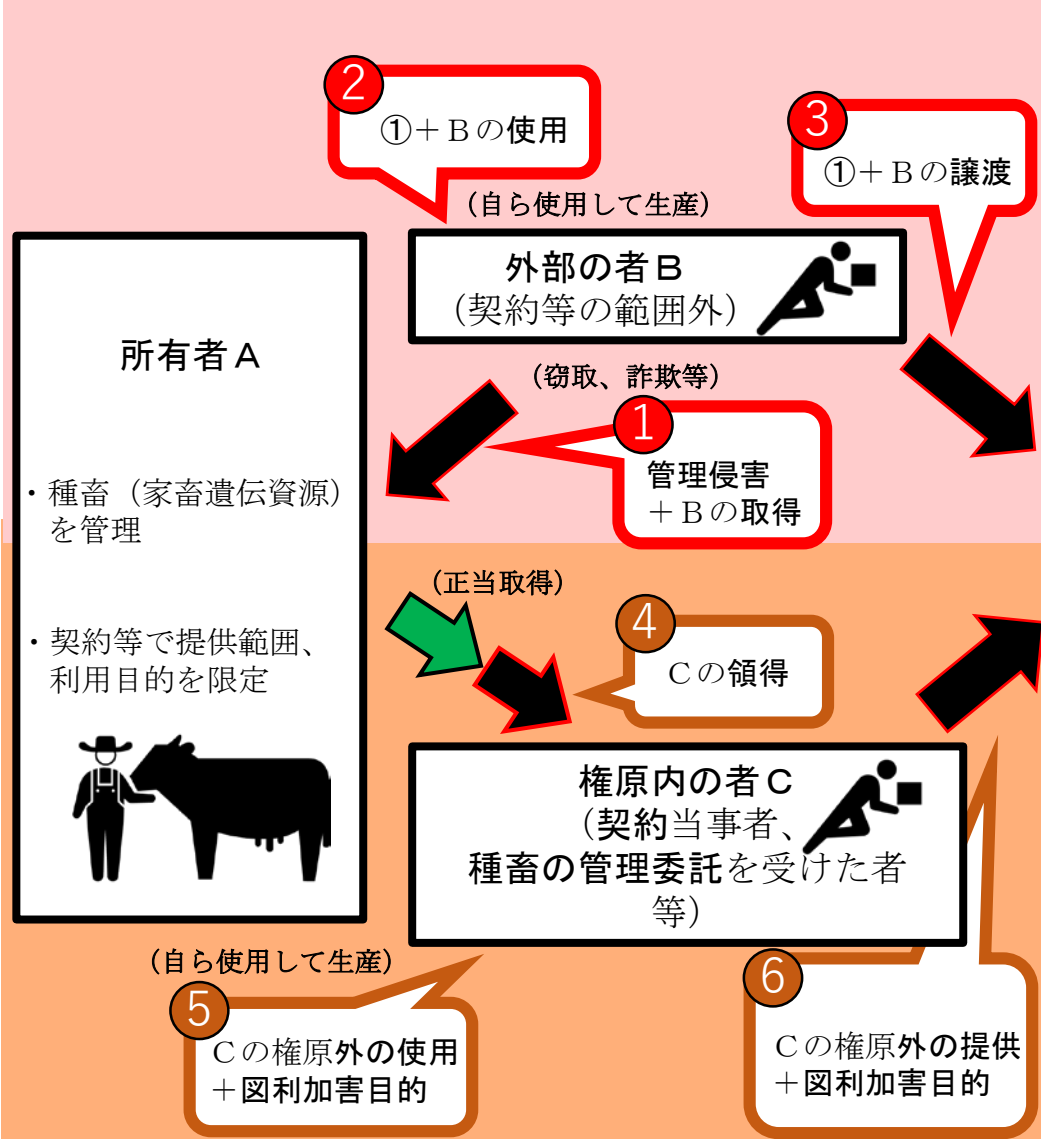
(これまでの専門部会資料の抜粋)



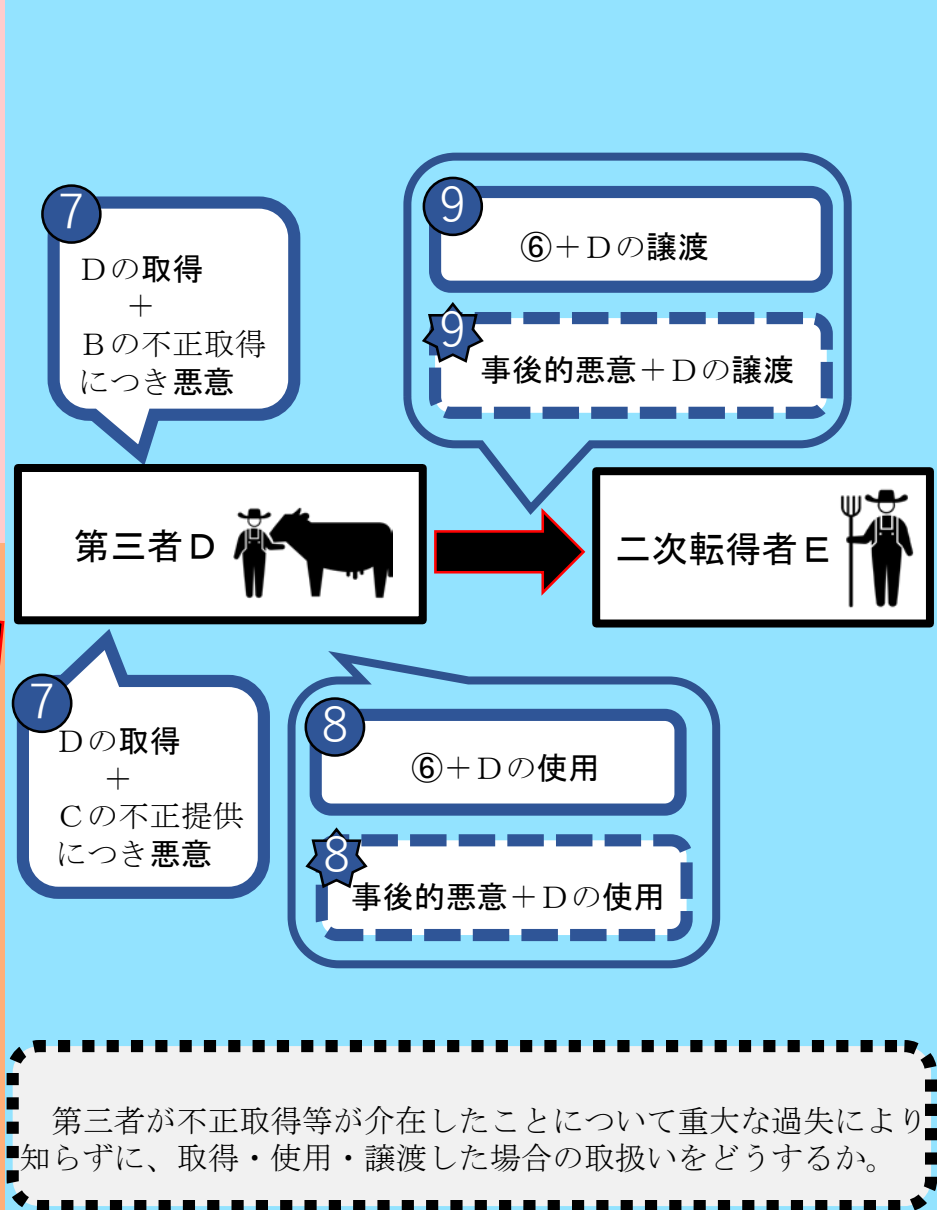
	営業秘密	限定提供データ	家畜遺伝資源
対象	秘匿を前提として管理されている技術上又は営業上の情報 (顧客情報、製造方法、ノウハウ等)	他者への提供を前提として一定の技術的管理がなされている電子データ (地図データ、機械の稼働データ、市場調査データ等)	家畜改良の成果として創造された、優秀な形質を有する個体(家畜)の増殖・再生産が可能となる情報財 (和牛の精液・受精卵等)
特性	秘密管理性	— (秘密管理性のあるデータは対象外)	・近交係数の上昇を防ぐため、一定程度の遺伝子交換が必須(秘密管理性は成立し難い)
	非公知性	限定提供性 (特定の外部の者への提供が前提)	・契約等によって家畜遺伝資源の利用者の範囲、利用目的等を限定(限定提供)
	有用性	相当蓄積性 〔「相当量」は個別判断。電磁的方法によって蓄積されることにより価値を有するものが該当〕	・産肉能力、肉質等の点で差別化が図られる(有用)  ・改良は、優秀な能力(形質)を発現する遺伝情報を集積させる行為(付加価値の高度な蓄積)
	—	電磁的管理性	・改良が継続して行われることで有用性が維持される  ・形質が子孫に一定程度遺伝して保持される
不正使用による損害の程度	競合他社に不正使用されて同様の製品が作出されれば、市場競争力が著しく低下し、甚大な損害が生ずる可能性	データは複製が容易。一度不正に流通すれば輾転流通しやすいため、潜在的顧客が奪われ、データの価値を毀損し、甚大な損害が生ずる可能性	家畜遺伝資源は、家畜人工授精等により、家畜の拡大再生産が容易。一度不正に流通すれば輾転流通し、品質等において価値の高い家畜が市場に流通する等により、潜在的顧客や消費者が奪われ、改良努力への投資回収が困難となる等の甚大な損害が生ずる可能性

# 「家畜遺伝資源」に関して想定される侵害行為類型 (不正取得パターン)

## A 不正取得パターン



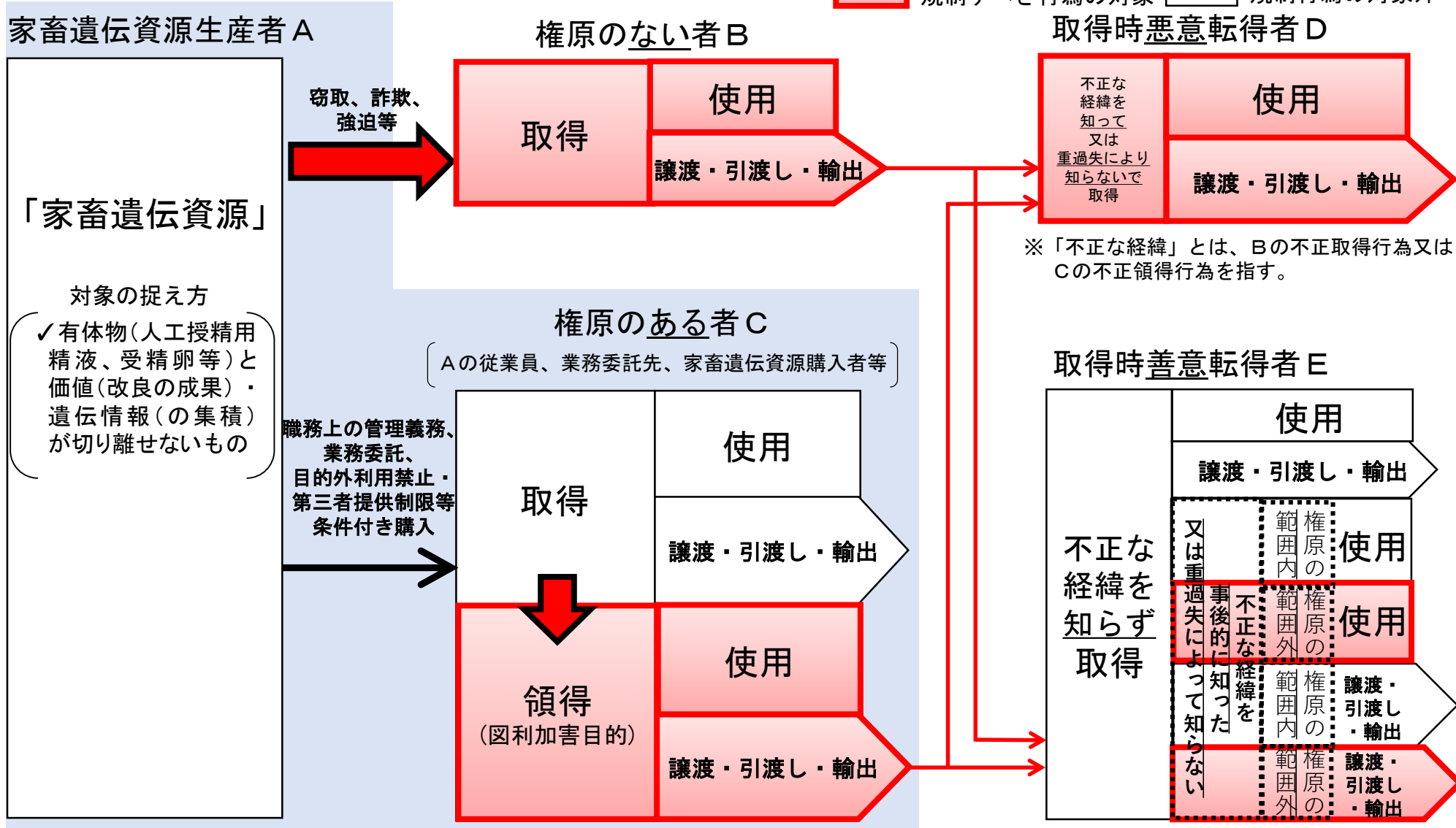
## C 転得パターン



## B 信義則違反パターン

# 前回の専門部会（10/25開催）で議論された「家畜遺伝資源」に係る侵害行為のイメージ

  規制すべき行為の対象   
   規制行為の対象外

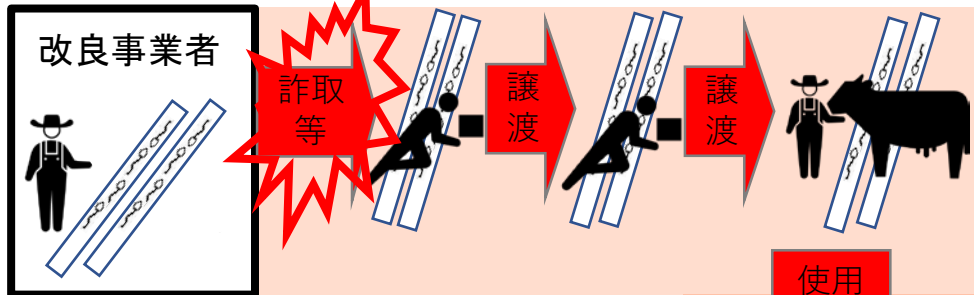


## ※不正使用行為によって生じた侵害品の取扱い

- ① 家畜遺伝資源の不正使用により生じた家畜及び家畜遺伝資源の使用・譲渡等（善意・無重過失者を除く。）
- ② ①の不正使用により生じた家畜及び家畜遺伝資源の譲渡等（善意・無重過失者を除く。）

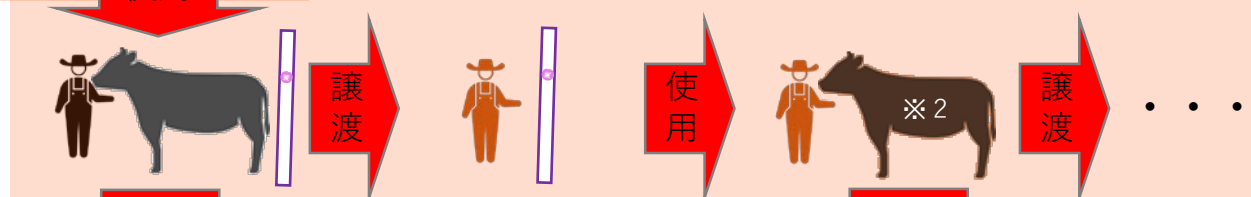
取引の安全とのバランスへの配慮

【遺伝情報的な第一世代】

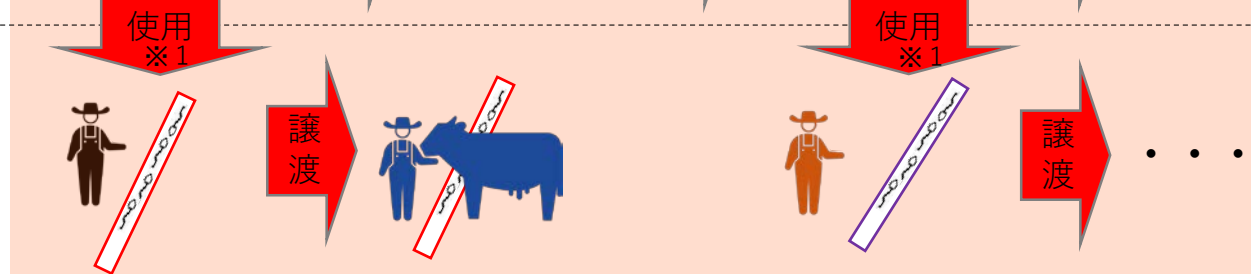


■ : 救済措置の対象 (案)

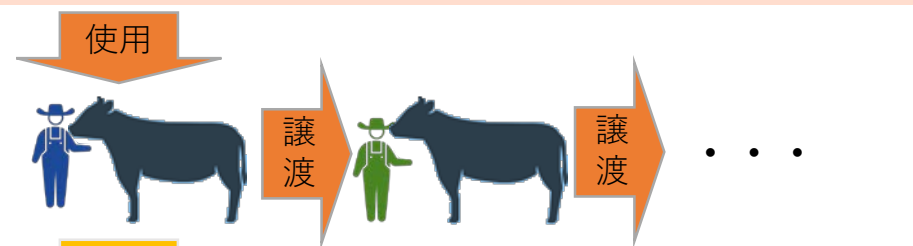
【二次侵害品】



【二次侵害品】

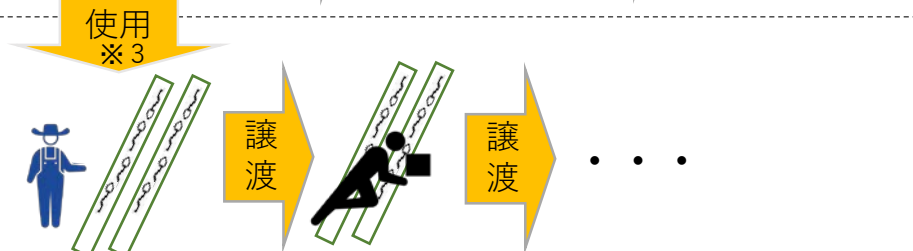


【三次侵害品】



【遺伝情報的な第三世代】

【四次侵害品】



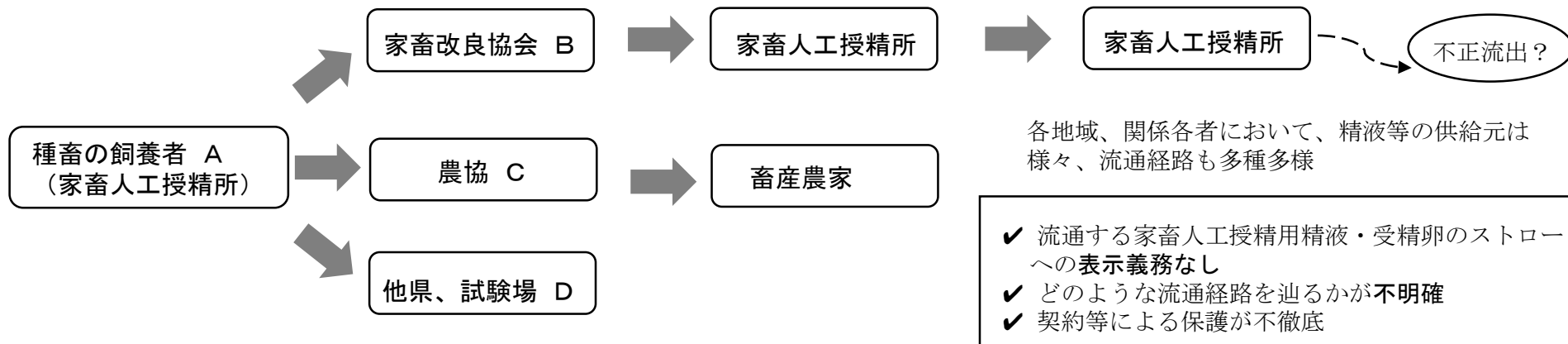
※1 牛の生育期間が概ね1年強であることを考慮すると、不正使用により産出された子牛の更なる不正使用（採精等）までには、1年程度の猶予期間あり

※2 不正使用により産出された受精卵を使用して子牛を産出する行為の取扱い（二度目の不正使用行為であることを捉えて二次侵害と捉える or 遺伝情報としては受精卵と同じであるため一次侵害と捉える）

※3 1と同様に、更なる不正使用までに1年程度の期間あり

# 流通管理の強化・契約等による保護の推進と不正な流通等の捕捉（イメージ）

現状



今後

